

平成28年度 第1回 特別史跡熊本城跡保存活用委員会

日 時：平成28年10月21日（金）13:30～15:00

会 場：熊本市教育センター4階大研修室

出席者：伊東（龍）委員、伊東（麗）委員、今村委員、北野委員、千田委員、谷崎委員、富田委員、
中井委員、永田委員、西嶋委員、西村委員、平井委員、松永委員、松本委員、毛利委員、
吉田委員、吉丸委員、熊本県文化課

欠席者：北原委員、田中委員、山尾委員

事務局：観光文化交流局：石櫃局長、津曲総括、三島部長、田上部長

文化振興課：濱田課長

熊本城総合事務所：河田所長

熊本城調査研究センター 渡辺所長、網田副所長

石櫃局長挨拶	<p>委員会の開催に当たりまして一言ご挨拶を申し上げます。本日はご多忙中に関わらず、また足元が悪い中ご出席いただきありがとうございます。委員の皆様方には地震後大変ご心配をおかけしたまま委員会の開催が遅れましたことをお詫び申し上げます。</p> <p>皆さんご承知の通り4月14日と16日の地震により熊本城も大変大きな被害を受けました。重要文化財建造物13棟はじめ、天守閣などの復元建造物も倒壊や破損し、また、石垣につきましても全体の約1割が崩落し、修復面積はその数倍になるうかというところ です。</p> <p>傷ついた熊本城を私も市庁舎より毎日見っていますが、連日多くのお客様が熊本城を訪れ、励ましの言葉やご声援ご支援いただき、熊本城が私共にとり大変大切なものということを改めて感じているところです。</p> <p>文化財として保存・復旧することは当然のことですが、熊本地震からの復興の重要な象徴の一つとして、しっかり熊本城の復旧を進めていかなければいけないと思っています。</p> <p>本日の会議では被害状況や経過についてのご報告、熊本城復旧の基本的な考え方、今後の復旧の基本方針、基本計画策定の進め方などについて、私共の方からご説明をさせていただき、先生方には忌憚の無いご意見をいただければと思います。本日の会議どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>
--------	---

平井委員長挨拶	<p>お忙しいところ皆様方お集まりいただきありがとうございます。</p> <p>熊本城は皆様ご存知の通りの状況でございますが、私も8月に一度城内を全部見せてもらい、啞然として帰ったわけですが、これから何年かかって元に戻せるのだらうという事が今一番の心配事でございます。</p> <p>皆様方のご協力をいただき、何とか元に戻したいと思っておりますが、私が生きている間には無理ですので、皆様方に跡を継いでいただかなければなりません。どうぞよろしくお願い申し上げます。</p> <p>今日も忌憚の無い意見をいただければと思います。</p>
---------	--

審議事項 (1) 被害状況報告 資料 -1、資料 -2 説明後	
	意見無し

審議事項 (2) 地震後の経過報告 資料 -1、 -2、 -3 説明後	
	意見無し

審議事項 (3) 熊本城復旧の基本的な考え方について 資料 説明後	
千田委員	<p>只今熊本城復旧の基本的な考え方について説明を伺ったのですが、様々な被害状況の確認や緊急の文化財保護の対応などの中で、このような基本的な考え方をまとめられ、心より敬意を表したいと思えます。</p> <p>1.基本的な考え方で5つの指針を示されていますが、いずれも非常に的確な方針ではないかと伺わせていただきました。</p> <p>先程も様々な被害状況、現時点での最新状況を教えていただきましたが、これまで日本の文化財或いは全国にたくさんある城跡の中でこれ程大きな被害を受けた城跡はなかったように思います。</p> <p>既に説明がありましたように、或いは委員長から最初に話がありましたように、簡単に短期間で修復することはとても難しいと思っております。</p> <p>これまでの文化財修復などで取られてきたように、特に石垣修復のようにいろいろな危険があり安全確保のために完全に囲ってしまい、市民にも県民にも或いはよそからのお客様にも工事途中を見ていただくことができないような形で進めていくというのでは非常に難しいのではないかと私自身感じていました。</p> <p>そのため、この基本的な考え方で示していただきましたように、文化財の価値を損なわない丁寧な復旧するという事は国指定の特別史跡として当然基本と思いますが、いかに復旧過程を公開していくかということを是非お</p>

	<p>願いたいと思っています。</p> <p>市民や県民の皆様或いは全国から熊本城が大好きという方は沢山いらっしゃいますので、出来れば公開するだけでなく、そのような多くの方々が何らかの形で参加ができるような形での復旧ということも進めていただけたら大変有難いと思います。</p> <p>それから、今回震度7に近い地震が2度来るといってこれまで想像し得なかった大きな地震で発生したことにより大きな被害が出たということを踏まえ、勿論文化財としての本質的価値を保つということが基本となりますが、将来に備えるということ言えば、いろいろな新しい技術というか、耐震補強を高める技術も様々あると伺っていますので、是非文化財の本質的な価値を保ちながら新しい技術も取り入れていくことにより、安全に安心して復旧後多くのお客様に熊本城をご覧いただける復旧を考えていただけたら大変有難いと思いました。</p> <p>また、一つお伺いしたいのは、基本的な考え方(1)「天守閣の早期復旧を目指す」と謳われていますが、地震発生1ヶ月程後に現場を見せていただきました折、大天守と小天守のそれぞれでかなり石垣の被害状況が異なっているように拝見しました。</p> <p>基本的な考え方(1)は、大天守、小天守両方ということですか。或いは、被害状況によりどちらかという考えですか。</p>
事務局	<p>大天守・小天守両方で目指していますが、事実として、大天守部分がある程度ダメージは軽度と考えており、どうしても若干の時間差がでてくるのはやむを得ないと考えています。</p>
田中委員	<p>基本的な考え方については、千田委員が言われたように特に2番目の文化財的価値を損なわないで丁寧な復旧をするというのは大切だと思います。</p> <p>3番目の復旧過程の段階的公開を行うというのは、安全性を当然確保しなければならないのですが、最近公開型修復というのが全国で行われていて、修復を隠してするのではなく、きちんと現場が見えるような形で修復した方が良いという話があり、公開型修復によりお客様が呼べるというような話もあっています。</p> <p>特に今回の被害はものすごく広範囲に及ぶことから是非復旧しているところを安全確保しながら公開していかなければならないと思います。</p> <p>それから、このような基本的な考えを出す前にまず1番目にどうして壊れたかという原因究明が当然必要です。勿論地震が2回あったとか活断層の関係だとか地震波の関係だとかいろいろあると思うのですが、どのような原因で壊れたのかということを確認に出し、その事に基づいて方向付けすることが必要だと思います。是非その原因究明というのも早急にやっていただき</p>

	<p>たい。そのような原因だからこのような修復をするという方針が出ると思います。それを是非お願いしたいと思います。</p>
事務局	<p>田中先生が言われたことは至極最もな事だと思います。例えば、具体的に石垣修復する場合はこれまで史跡部会・建築部会においてご審議いただいたところですが、次の資料4でご説明しようと思っておりましたが、他の分野の詳しい専門家の方々にもお集まりいただき、史跡部会・建築部会というものに少し改編し、文化財修復検討部会という形でご協力いただこうと考えています。その節は必ず原因要因を究明させていただこうと思っておりますので、その中でご協力いただきたいと思います。</p>
吉丸委員	<p>先程ご説明がありました基本的な考え方についてはよく整理され、本当にこのような方向で整備していただければ大変有難いと思っております。</p> <p>特に、(1)「天守閣の早期復旧」これはおそらく技術的な問題は勿論当然クリアしていく必要があると思いますが、本当に急便の被害などの防止、すべてにおいて精一杯早期復旧を念頭に入れて進めていただければ有難いなという思いがします。</p> <p>それと今もご意見ありましたように、(3)「復旧過程の段階的な公開」これも本当に大事なことだと思います。実は私はコンベンション関係にも関わりを持っているのですが、現在熊本城の案内は城彩苑でしており、実はそこでアンケートを取っています。その中でどのような意見がまっているかと言いますと、まず「天守閣に一番近付ける場所はどちらでしょうか」それから「熊本城に関する展示物はどこに行けば見られるのでしょうか」それから「飯田丸五階櫓の一本足はどこから見られるのでしょうか」それから「本丸御殿の内部は地震後どのようになっているのでしょうか」最後に「いつ頃から入場できるようになるのでしょうか」このようなご意見が圧倒的に多かったということでまとめています。是非この基本的な考え方のおり早期復旧の問題、段階的な公開、このような問題が当然絡んでくると思います。是非そのような点を考慮されながら、一般市民・県民或いは熊本城のファンの皆様方のためにも、熊本市の事務局も一生懸命頑張られています、そのようなことを是非進めていただきたいと思います。</p>
事務局	<p>今回先生方にご意見いただいた内容は、私共もいろいろな方面の方々からいただいております。「安全性を確保しながら早く復旧して下さい」などのお話を沢山頂いています。そのようなご意見を受け、私共も国県市連携し、今後取り組んでいこうと考えています。本日の資料にもありますが、より詳細の概要については今後の基本方針決定、そして復旧基本計画策定、これは来年度までかかることとなりますが、その中で細かく打合せして進めていきますのでどうかご理解いただきたいと思います。よろしくお願いたします。</p>

西島委員	<p>確認というかお尋ねも含めてですが、一つは、資料3の熊本城復旧の基本的な考え方についてですが、これは7月26日に市長が公表されたものという捉え方でよろしいでしょうか。これは7月26日公表されたものを委員の皆様に見ていただいているということよろしいでしょうか。</p> <p>この委員会で意見をどうこうという話でなく、この基本的な考え方の活字が変わるということではないということによろしかったですか。</p>
事務局	その通りです。
西島委員	<p>次にお尋ねですが、この基本的な考え方についてですが、この2で平成29年度までに基本計画を策定されるということですが、策定後に本格的な復旧作業に入ると理解してよろしいでしょうか。</p>
事務局	復旧基本計画に基づき本格的な復旧作業に入る考えです。
西島委員	この基本計画策定は先程少しお話が出ました委員会を再編した組織で検討していくと理解したのですが、よろしかったですか。
事務局	計画策定については、資料4で説明させていただきたいと考えています。
西島委員	<p>わかりました。それから復旧過程の公開等についてもこの復旧基本計画で平成29年度までに策定するというので、先程他の委員の方々からも是非公開していただきたいというご意見がありましたが、経済界でも熊本城のことでは基金を設置して寄付の呼びかけを行うなど非常に関心があり、大きな復興のためのテーマになっています。</p> <p>私の周りで議論があっている点を少しご紹介させていただきますと、現在これまでの有料区域に入れられないという状態になっており、対外的にはお城には入れられないという情報発信になっている部分もあります。</p> <p>しかしながら、現状は無料区域を皆さん計画されているし、ガイドの方たちも無料区域を相当熱心に説明されているのが実態です。そのような意味では、創造的復興に向けてこれまでの有料区域のゾーニング、それから有料区域の考え方で踏み込んで、是非お考えいただきたいと思います。</p> <p>また、活用部会が再編されるということですが、私の個人的認識では熊本城の最大の活用というのは歴史体験をしていただける場になっているということが最大の活用と思っています。</p> <p>これまでの活用部会ではそれ以外の活用のことが中心に議論されていましたが、今回被災して立ち返って思うのは文化財としてのすばらしさをどのように体験していただくということが最大の活用であると再認識したわけです。</p> <p>そのような意味で、これまでの有料区域のあり方、入場料、サービスの仕方、ガイドの対応などを含めて、この復旧の途上を創造的に体験していただ</p>

	<p>くようなこれまでの日本になかったような、見学・ガイドの仕組みを、厳しい中であるとは思いますが、是非皆さんで知恵を出して文化庁ともしっかりスクラムを組んでいただき構築していただく絶好のチャンスではないかと思っています。よろしくお願いたします。</p>
事務局	<p>公開に関してですが、地震後これまで開放させていただいている区域はほとんどが無料区域になりますが、今後復旧基本計画に基づき有料区域を徐々に修復し、その修復過程について安全性を担保しながら少しずつ開放していきたいと考えています。</p> <p>先程委員の皆様からご意見いただきましたように、石垣修復の作業風景、或いは可能であれば重要文化財建造物の修復過程など歴史文化を体感できるということは非常に有効なことと思っています。私共も是非計画の中に謳い、進めていきたいと考えています。</p> <p>活用部会の再編につきましては、今回の熊本城の修復は非常に時間がかかります。また、このような甚大な被害を受けているという中で早急に検討していく部分もありますので、そのような部分を集中的に考え、ご助言いただきたいということもあり、再編させていただきたいと考えています。</p>
毛利委員	<p>基本的な考え方(4)ですが、天守閣耐震化の検討についてはこれまで委員会でも何度か話をしてきましたが、残念ながら耐震工事が行われる前に地震が起きてしまいました。ここに記載のある「最新技術も取り入れた復旧手法の検討を行う」という部分ですが、これまで検討してきた耐震工事について全く白紙に戻して、新しく取り組まれるのか、或いはこれまでの耐震工事を練り直していくのか考えを教えてください。</p>
事務局	<p>耐震化については、今回の修復では大きく建造物と石垣の2つに分かれます。</p> <p>建造物については、文化庁とは今回の地震に関わらず修復する際には必ず耐震化を実施することで進めてきました。今後修復していく重要文化財建造物は耐震化を実施していくことになります。</p> <p>石垣につきましては、これまで耐震化という概念があまりなかったのですが、今後も多くの方々にまた熊本城を見ていただくためにも、本質的価値を損なうことがないような形で、少しでも崩れないように安全性について検討していくことが非常に重要と考えています。今後学識の方々の指導、アドバイスをいただきながら進めていきたいと考えています。</p>
谷崎委員	<p>基本的な考え方(3)「観光資源としての早期再生を図る」部分について、先程もお話ありました有料区域と無料区域のところで無料区域の中でまだ開放されていない場所に行幸坂から北側に抜ける加藤神社までの区間が開放されていないと思います。</p>

	<p>この今後の行方を少し伺いたいと思います。先程資料 -2 で 辺りが非常に被災しているところは遠くから見させていただいていますが、開放できなのは安全性が確認できないということかと思います。しかしある意味言葉は悪いかもかもしれませんが、熊本城全体を外側から 1 周する観光客が多いということからしましても、この行幸坂の開放というものはできれば急いでいただければと思います。</p> <p>これまでは車両まで通行が可能でしたが、例えば歩行者だけでもそこを見学できるようにすれば、ガイドの方も観光という観点からは案内が非常にやりやすくなるのではないかと思います。</p> <p>それから先程石垣の耐震化問題について話がありましたが、今回もしこの地震が昼間に起こっていれば、石垣崩壊により相当数の犠牲者が出ただろうと思います。櫓は勿論のこと石垣につきましてもできれば耐震性の観点についてご考慮いただきたいと思っています。以上です。</p>
事務局	<p>行幸坂の件ですが、行幸坂は実際被災（車道と両側歩道部分に亀裂）しており、現段階で今後どの程度の工事車両が通行するか、或いはどの場所から工事していくかということも見えていないため（復旧基本計画において策定）、当面通行していただくのは控えていただこうと考えています。勿論今後の開放エリアや工事進捗など状況次第によって検討していかねばならないと考えていますが、現段階では非常に厳しいということになります。</p> <p>また石垣の耐震補強については、文化財としての価値を守りながら、尚且つ安全性も確保しなければならないという様々な観点での検討が必要と思っています。今後様々な会議体がありますので、関係機関とも話しながら、ただ単に熊本城に限る話ではないということも踏まえて慎重に確実に進めていかなければいけないと思っていますのでよろしくお願いたします。</p>
谷崎委員	<p>先程の段階的公開の話ですが、熊本城の復旧・復興の状況については皆様関心をお持ちですし、可能であれば定期的に熊本城の復旧状況のある程度記者会見なり発表していただくなど段階的な取り組みを是非お願いしたいと思っています。また、刻々と進んでいる状況が見えてくると市民の方も自分たちの市民目線で何か協力していこうという動きも出てくると思いますので、そのような意味では進捗を見せていく取り組みを是非とも定期的にお願したいと思っています。これにはお答えは入りません。よろしくお願いたします。</p>
田中委員	<p>先程の耐震化の話ですが、これまで大天守、小天守、宇土櫓で、それぞれ耐震構造を施工していると思いますが、それぞれでどのような結果が出たかをきちんと調査してもらい、それが良い方法か悪い方法か、悪い方法ならば直さなければならないなど、また、コンクリートと木造の建物は基本的に違</p>

	<p>うので、その点も含めて耐震診断等をしっかり実施していくことだと思います。</p>
事務局	<p>天守閣については、平成14年に耐震診断を実施し、昨年度に耐震化の方針をまとめ、実施時期について検討している最中で地震による被災を受けています。そのため耐震化までは至っていません。また、宇土櫓については、先生もご存知のとおり建物内部に鉄骨ブレースによりある程度の耐震補強がされていましたが、この櫓も今年度耐震診断を実施し、必要に応じて耐震化を図っていく状況でした。</p> <p>今回の地震により振り出しに戻った感があります。先生が言われますように、木造と鉄筋コンクリート造の違いはあると想定していますので十分その辺りも把握しながら進めていきたいと考えていますのでよろしくお願いいたします。</p>
西村委員	<p>今日これだけの資料をこの委員会に提出されるエネルギーはものすごいエネルギーが必要であったかとお察しします。熊本市の皆さんの努力を高く評価させていただいています。おそらく不眠不休の時もあったのではなからうかと思うと大変頭の下がる思いをしています。</p> <p>また、復旧の基本的な考え方についても、この5項目一つ一つ文章を垣間見ますと非常に意味のある大きな今後の方向の目的と言いますか、この大変大きな題目で進められることに対しても敬意を表します。</p> <p>話は遡りますが、資料-1において熊本城の被害総額が約634億円ということですが、熊本市の負担額はどのくらいになるのでしょうか。本来熊本城の土地は一部を除き大半が国所有であるということを考えますと、国の費用がどれくらいで熊本市の費用がどれくらい捻出されるかお伺いしたい。</p> <p>それともう一つは、熊本市の熊本城関係の方々が一生懸命復興に汗を流していることは市民も十二分に認識していると思いますが、今一つ所有者である国の動きが全く見えていないと思います。本来は国所有ですので熊本城復興事務所を国直轄で置いてもおかしくないと思うのですが。報道機関により国土交通省、文化庁、県、市の4者会議が開催されていることは熊本日日新聞等でも拝見しますが、一向に国の力点が見えません。国所有なので、管理者である熊本市が状況把握して報告し、費用と技術についてはもちろん国が率先して実施していくべきと思っています。特に石垣については全くその通りでなからうかと思うのですが、国の動きと予算措置がどのようになっているか教えていただきたい。</p>
事務局	<p>費用については被害総額を634億円と試算させていただきました。そのうち国費がいくらということは、補助金部分と起債事業や寄付金等に対応する部分もあり、現段階では詳細の分担について数字でお示しすることができ</p>

	<p>ません。ただ、地震後これまで私共は国の関係省庁に対して、国庫補助率の嵩上げなど財政的な支援を要望してきました。その結果、ご存知と思いますが、これまでにない補助率に嵩上げていただき、財政的な支援はかなりの割合でしていただいたと思っています。今後は被害状況が具体的に把握されたり、或いは実際の設計や査定が進んだりする中で、より精査された金額をお示しさせていただくことになると思っています。</p> <p>次に国所有という話についてですが、ご案内のとおり熊本市は管理団体として管理しています。管理者である私共が熊本城を一番知っているということもあり、実施主体として進めさせていただくということで、国とも話を致しています。財政的支援については先程お話ししましたが、人的支援についてもお願いしているところで、先日文化庁内に支援室を設置いただきました。勿論その前からも文化庁の方とは話を進めながらかなり頻度を上げて進めてきた経緯はございます。</p> <p>国もこのような状況を踏まえ、対応いただいていますので今後も支援の継続をお願いしているところです。当然現場に来てもらい現場を見ながら担当の方といろいろ話をさせていただきたいという話をしています。実際そのように極力熊本に足を運んでいただいていますので今後も更なる支援をお願いしていきたいと考えていますのでよろしくお願いいたします。</p>
西村委員	<p>国所有で国が市に支援するのですか。国が実施して市が支援するのですか。</p>
事務局	<p>支援という形で表現したため少し誤解を招いたかもしれませんが、私共は合同で復旧していきましようという話をしています。</p> <p>今後基本方針等を作成するに当たりまして、最終的な実施主体は熊本市となりますが、事務局運営など国県市で共に進めていきましようという話をしています。これまでのように決してオブザーバーという形ではなくて事務局側に入らせていただくという話をしていますし、今後も更に申し上げていきたいと考えています。</p>
北野委員	<p>先程から議論となっている石垣の耐震化と復旧過程の段階的公開ということに関して一つお願いしたいことがあります。</p> <p>これから石垣については様々な形で耐震化を考慮した復旧が進んでいくと思いますが、東日本大震災で同じような大きな被害を受けた白河市の小峰城というところがあります。そこで実施してとても良かったことは、復旧過程を段階的に公開していくことは当たり前なのですが、被災状況をしっかり市民の方に見ていただくことで災害に対する防災意識も持っていただけていると思っています。</p> <p>勿論安全を確保した上になりますが、これまで石垣のすぐ下を歩いていて</p>

	<p>も、通常危険であるとは考えないわけですし、大きな災害も喉元過ぎれば忘れてしまい、防災意識が日常の生活の中でどんどん薄れていきます。</p> <p>今回熊本城の石垣はかなり大きな被害で大体 3 割程度が修復しないといけないということですが、実はその残りの 7 割も人間にたとえると寿命が一気に縮まってきているのも事実です。今度震度 6、7 でなくてもまた崩れるかもしれない。そのような普段からの災害に対する防災意識や、或いは災害というものを人の生活から遠ざけるのではなく、ある意味共存していくような意識を市民に持っていただくためにも、被災状況を現場でしっかり見ていただくことも必要かと思います。勿論耐震化は進めるのですが、両方の意味を段階的な公開ということの中で考えていただきたいと思います。</p>
松永委員	<p>復旧基本計画というのは来年度策定されると思いますが、熊本城復旧の基本的な考え方について(1)と(5)「天守閣の早期復旧」と「100年先の礎作り」について骨子的なことがあれば教えていただきたい。</p>
事務局	<p>まず「100年先の礎作り」については、まだ構想段階で具体的な話には入っていません。これから話を進めなければいけないと思っています。</p> <p>次に、「天守閣の早期復旧」については、現在熊本市公式 HP 等にも掲載しているところですが、復旧に向けた業者選定のための公募型プロポーザルを実施中で、今後業者が決定しましたら設計に入っていく予定です。こちらについては着々と進めさせていただいているところです。</p>
吉田委員	<p>先程も話が出ましたお城の中の歴史性というものを考える時に、今回の地震で生じた被害状況をそのまま残すという方向は考えていないのでしょうか。すべて整備してしまうのも一つかもしれませんが、一部なり地震の歴史性というようなものも残していくということも必要ではないでしょうか。</p>
事務局	<p>歴史性を残すという考えはいろいろな方から話をいただいています。今後そのような観点も踏まえ考えていかなければいけないとは感じています。今日のご意見も踏まえ進めさせていただきたいと思います。</p>

審議事項 (4) 今後の特別史跡熊本城跡保存活用委員会について 資料 説明後	
田中委員	<p>保存活用委員会の保存活用計画は、平成 28 年度中にまとめるということですよ。その後の点線での記載は、復旧基本計画策定と併せて平成 28 年度中にはまとまらないということですか。年内に復旧基本方針が策定され、その文章を入れれば保存活用計画はまとまると思うのですが。</p>
事務局	<p>保存活用計画は平成 28 年度末にまとめたいと考えています。田中委員が言われるように復旧基本方針は年内策定ですが、具体的な復旧基本計画を平</p>

	成 29 年度内に策定するため、相互に連携した部分もあるかと考えていますので、保存活用計画策定も平成 29 年度に合わせることで考えています。
西島委員	<p>いくつかの組織で連携しながら進められていると思いますが、ここに資料に出ていない組織として観光サイドで熊本城の観光のスタイルを議論する委員会は立ち上げられたのでしょうか。</p> <p>もしそのような組織があれば、ここに記載されている組織との役割分担や連携、歴史建造物や史跡に関する法律など、もしそのような動きがありましたらご説明していただきたい。なければ結構です。</p>
事務局	観光部長でございますが、私の知る限り市としてそのような動きはございません。
西島委員	細かなことですが、委員会ですので委員名簿を資料として必ず付けていただくようにしてください。
伊東（龍）委員	「天守閣の早急な復旧」を掲げられていますが、その具体的な検討は、史跡部会・建築部会で審議されるということによろしいのでしょうか。
事務局	今年度についてはそのように考えています。
松永委員	中心商店街等連合協議会の松永です。資料 に熊本城復旧基本方針に関する懇談会のところに学識者・経済団体等と記載されています。11 月から始まる予定になっていますが、私は天守閣や城彩苑活用について大事なアイデアを持っていますので、是非私をその懇談会に入れていただく訳にはいかないのでしょうか。お願いします。
事務局	懇談会につきましては、期間もあり、委員の方々を決め調整しているところです。松永委員のご意見につきましてはその後の委員会等で機会があればお伺いし、もし機会がないということであれば個別に対応させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

全体を通して	
平井委員長	<p>せっかくのチャンスですので、崩れた石垣をただ直すだけではなく石垣の中がどのようなになっているのかということをお調べいただき調査研究をしていただきたいと思っているのがまず一つです。</p> <p>次に、建造物建造物と言われますが、重要文化財建造物と復元建造物は全く性格が違いますので、重要文化財建造物に関してはきちんとした組織を作り修理していただきたい。この資料に出てくるのは皆特別史跡熊本城跡となっていますが、その他に重要文化財建造物に関する検討委員会を、この委員会の中でも構いませんが作っていただきたいというのが非常に大きな希望</p>

	<p>です。そのようにしないと復元建造物と重要文化財建造物が一緒に扱われてしまうのではないかとということが非常に気になっています。</p> <p>それと共に復元建造物は1棟を除きほとんど全部建造物下の石垣が崩れています。これは完全にこれまでの復元建造物の建て方に構造的に基本的な問題があると私は思っています。その点はしっかり調査いただき、復元建造物を石垣の上にどのように載せるかということについてもう一度根本的に考え直していただかなければいけない。基本的には石垣というのは上から荷重をかけてないとしっかり保てないということを認識していただきたいということです。そのようなことも十分検討いただき、復元が遅れてしまうといけませんが、やるべきことは沢山あると思います。この際でなければできないこと、検討すべきことが沢山ありますので、その辺りをしっかり調査した上で今後に備えていただきたい。というのが私の意見です。</p> <p>また、今日は県からも出席いただいていますので、何かご意見があればお願いします。</p>
<p>熊本県</p>	<p>観光面含めご意見いただきありがとうございました。県も市と協力しながら早期復旧ができるよう可能な限りお手伝いしていきたいと考えています。</p> <p>公開活用に関しては安全性が確保できる箇所をできる限り良い形で公開しながら、長い時間がかかる復旧をいろいろな方々にご理解いただける取り組みを続け、支援していきたいと考えています。</p>

以上